

第7回益田市立地適正化計画策定審議委員会

日時：令和5年2月16日（木）10：00～11：00

場所：益田市役所本館3階 大会議室

参加者：委員11名、事務局6名、エブリプラン3名

議事

委員意見	事務局回答等
計画本編 P87「防災公園の整備」の箇所の記載では、災害の最中に避難を行うように読み取れる。“暴風雨が一段落してから”というようには読み取れない。	—
高台という表現は適切か。もともと田んぼであった土地をかさ上げたような場所のことを高台と言えるのか。	防災公園は8メートルほど嵩上げをする予定。山陰道は10メートル。なお、防災公園の高さは高津川の堤防よりも高くなる。使用する土砂については、高津川の河床掘削や山陰道の残土などを流用する予定。
高速道路（高規格道路：山陰道）と防災公園を一体に考えられ、山陰道ありきで考えているため違和感が生じているのではないかと。 山陰道との接続は考えず、防災公園は、かもしまの真ん中に作った方が住民は歩いて避難できるため、良いのでは。 (他委員より上記意見に対し) 細かい文言は、今後詰めていく必要があると思うが、具体の防災計画については、それぞれの地域で詰めていけばよいと考える。ここでは、防災公園の利用と山陰道を利用して避難という趣旨が伝わればよいと思う。	山陰道のタッチは、状況によって高速道路が止まるのかなどは、状況に応じて対応することを国土交通省と覚書を交わしている。
高校生の意見にもあったが、自家用車に頼らない、公共交通や徒歩による移動ができるまちづくりの観点も必要と思う。かもしまは、新しいまちだが、今後何年も経てば交通弱者も増えてくると思う。防災公園は、そうした交通弱者が避難する際のランドマーク的な位置づけとしても必要と思う。	防災公園の北部には要支援施設もあり、ご意見にあったような方々をはじめとした市民の皆さんの、まずは、安全を確保するための場所として考えていただきたい。

委員意見	事務局回答等
益田市内で100%安全な地域というのではないと思う。将来的な少子化や高齢化、交通弱者や地球温暖化などの状況下におけるまちづくりを考えた中で、水害のリスクはあるが施設の立地などに恵まれた地域（益田川左岸地区）については、防災のソフト面も連動させたまちづくりを進めていくべき。	—
計画の策定後、様々な団体が一体となって防災や福祉の面でもまちづくりを進めていくべきであるとする。	—
スマートフォンで情報をやり取りする時代になったが、高齢者の人は使いこなせていない人もいる。防災時には、サイレンや防災放送なども充実させておかないと、高齢者を取り残すことにもつながるのでこうした手段の活用も検討してほしい。	—
行政の計画策定の際に、パブコメや高校生との意見交換の結果を出されるが、これらの意見が全てだと思っはいけないと考えている。	—

総 括

(1) 計画策定に係るポイントの整理

- ① 居住誘導区域の設定「益田川左岸地区を居住誘導区域に設定することについて」
- ② 中心市街地と市街地外との関連「中心市街地と周辺地域との結びつきについて」
- ③ 都市機能誘導区域の設定「中心市街地エリアと高津エリア」

(2) 審議委員会としての結論

当審議委員会としての審議結果を次のとおりまとめ、令和5年2月22日に開催される益田市都市計画審議会において報告したい。

- ① 居住誘導区域の安全性を強化するための取組を防災指針においてしっかりと位置づけ、ハード・ソフト両面から防災・減災に取り組むこととし、国や県などの関係機関と連携したまちづくりを進めること
- ② この計画が、今後の益田市のまちづくりの指針の一部として、少しでも住みやすいまち益田になるように進めていただくこと
この2点を申し添えて、計画案を認める。